



森林管理局の取組

全国7箇所の森林管理局管内で、国際森林年を記念したシンポジウム、森の散策、植林活動、森林教室、キャンプ、森の市等の多様なイベントが500回以上開催されました。こうしたイベントへの参加者数は約14万人にのぼり、国際森林年の意義や森の大切さがアピールされ、参加者数以上の波及効果が期待されます。

北海道森林管理局

9月11日に北海道札幌市でシンポジウム「森を歩いて感じよう！森林から始まる北海道の未来」を開催しました。溝畑宏観光庁長官の記念講演のほか、パネルディスカッション、子ども大使の国際森林年アピール宣言や国際森林映画祭参加作品の上映などを行いました。



「森の可能性」
児童劇団 溝畑 宏

東北森林管理局

「白神を考える旬間シンポジウム」が9月10日に、国際森林年の国内テーマ「森を歩く」にちなんだ「森を歩く集い」が11日に行われました。学識経験者のほか、地元住民、大学生や白神山地のガイド関係者などが出席、それぞれが世界自然遺産を守る現状や今後の展望を議論し、知見を共有しました。



関東森林管理局

群馬県で4月29日に行われた「グリーンフェア2011」では、小学生を対象にした絵画書道コンクールや高校生による書道パフォーマンスなどが行われました。また、10月～11月にかけて、東京都で「高尾の森・ふれあいと学びのキャンペーン」にちなんだ親子間伐体験、散策、写真展など多くの催しが行われました。



中部森林管理局

6月～11月にかけて計5回行われた「軽井沢国際森林年記念事業」は、人間社会と自然の持続可能な関係を考えることを目的に企画され、自然観察ツアーやシンポジウム、林業体験などが行われました。



近畿中国森林管理局

「ひかり幼稚園(奈良市)」の園児達を対象に、6月4日、大亀谷国有林にて森林教室が開催されました。10月8日、9日には、大阪市などの都市住民に森林の重要性を伝えることを目的とした「水都おさか森林の市2011」が開催され、50以上の出展テナントと約2万5千人の参加者がありました。



四国森林管理局

6月5日、「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」の森林鉄道ガイドと「魚梁瀬森の案内人クラブ」との連携により、レールの残る隧道の散策や、復元された魚梁瀬森林鉄道への乗車などを行う「魚梁瀬千本山と100年の歴史・森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を開催しました。



九州森林管理局

5月21日、22日に宮崎県東諸郡郡綾町で「国際照葉樹林サミットin綾」が開催され、世界の照葉樹の保全・利用について講演と討議が行われました。11月26日には沖縄県西表島において「西表島の森を歩こう」をテーマに講演会や亜熱帯のマングローブ林などの森林観察会が開催されました。

